

KAZUYA NAKAMURA

中村 和也

中村工業 株式会社 専務

2017年度大阪
テクノマスター
OSAKA TECHNO MASTER

『産業の命綱』ゲンバの人の命も守るワイヤロープ

“ゲンバ”を支えるワイヤロープ

「大阪はワイヤロープ加工のメッカです」と中村氏。職人が加工したワイヤロープは全国各地の建設現場や港湾、工場に送り出され、さまざまな“ゲンバ”を支えている。ものづくりにおいて「重いものを吊り下げ、持ち上げる」ためには欠かせない存在なのである。職人たちは加工したワイヤがどのような現場で使われようとも、作業員の安全を守り、資材を的確に吊り上げ、日本のものづくりの一翼を担っていることを強く心に抱き日々の加工を行なっている。

ワイヤロープ加工一筋53年

ワイヤロープ加工は大きく分けると「ロック加工」と「編込み加工」に分けられる。「ロック加工」はワイヤを金具にはめ込み圧をかけて加工するもので、「編込み加工」は職人が手作業でワイヤロープをばらし、再度編み込みを行うことでワイヤの先端に輪を作る方法だ。これらはロープを使う現場によって使い分けられる。径の太いものになると数人の職人が息を合わせ、全身を使って編み込んでいく。そこには長年培ってきた阿吽の呼吸と、お互いを信頼し合う心意気が感じられ、その様は圧巻である。

うちの職人さん

「ワイヤロープ加工は誰でもできるようになる」と中村氏は言う。1本に撻り合わせられたワイヤを一旦ほどこき、的確に編み込むことで先端に輪を作っていく。その技法は昔ながらのものであり、その技を継承していくのも職人の「技」である。

その加工技能には一定の品質と作業の効率性が求められる。同社では国家資格である「ロープ加工技能士」資格取得を推奨し、若手たちは合格に向けて日々技術を磨いている。社内では多くの有資格者が活躍しており、中村氏は社員らの「熟練した技」に敬意を込めて、彼らを誇らしげに「うちの職人さん」と呼ぶ。

ワイヤロープ加工を知ってもらう

同社の若手社員は早くから大阪産業創造館発行のBplatz Pressにおいて町工場で働くオトコマエ「ゲンバ男子」に取り上げられるなど、多くのテレビや雑誌でその活躍をみせている。“ゲンバ”の様子を発信することは「加工を主とする職人たちのモチベーションの向上にも繋がり、ありがたいことだ」と中村氏は言う。さらに「ロープ加工の現場は、夏は暑く、冬は寒い。力もいるし、楽しいだけではない。しかし、それ以上の魅力があることは確かです。ぜひ大変なところも見ていただきたい」と思いを述べる。メディアに取り上げられ、“ゲンバ”の仕事がクローズアップされることで、そこに宿る熱意や意気込みが世間に伝わってきている。その様子は自社ウェブサイトから見ることができる。“ゲンバ”をオープンに発信することは、新たな若手の採用にもつながっており、事業の技術と技能の継承に大きな影響を与えている。



【趣味はカラオケ】

寡黙な印象の中村氏。趣味を伺ったところ、歌うことが好きだという。家族でよくカラオケに行かれるそうで、選曲を伺うと、子供たちが好きなアニメや特撮の歌とのこと。「子供たちの喜ぶ顔が見たくて」と、少し照れたような笑顔をのぞかせた。家族思いの優しさや頼もしさで家族を支えている。そんな中村氏は、ワイヤロープ加工でも陰から日本の産業を支えている。

職人の心意気—安心安全な製品を、心を込めて迅速に送り出す。



<日本で希少な太物ワイヤロープ加工と後進の育成>

昭和39年の創業以来ワイヤロープ加工を極め続けている中村工業株式会社。中村和也氏は社長の右腕として専務を務める。同社は約57トンもの重量物を吊り上げる径80mmクラスの加工を得意とし、全国にシェアを広げている。会社一丸となった加工技術の向上はもちろんのこと、インターンの受け入れなど未来のものづくりを担う若手の育成にも積極的に携わっている。さらに同社は「大正・港ものづくり事業実行委員会」の主要メンバーとして、全国各地から修学旅行生等の工場見学を積極的に受け入れている。そこで同氏は講師として、ものづくりの魅力を地域や子どもたちに伝えている。

■所属企業概要
中村工業株式会社 事業内容:各種ワイヤロープの販売及び加工全般
〒551-0031 大阪市大正区泉尾 6丁目5-40 TEL:06-6551-3390/FAX:06-6551-3396
<http://rope.jp/>

